

第4会場● 4F 大研修室

■司 会／渋谷 秀文 島根県益田市立二川小学校 教諭
下田 明子 佐賀県生涯学習センター 企画副主任

分科会の進め方

13:30～13:35

1 『里浜』づくりによるふるさと創造の実践－都市化の中の浦添市港川地区自治公民館の挑戦－ 13:35～14:05

銘苅全郎（沖縄県浦添市）港川自治会自治会 会長

『里浜』とは「里山」にちなんだ造語である。『里浜』は身近な海浜の活用を目的として地域活性化の素材のひとつとなっている。港川自治会は豊かな海辺の自然資源を活用して、急激に都市化の進んだ当該地域に自治公民館を中心とした新しいふるさとを創造すべく各種事業を展開している。プログラムは、潮干狩り、海辺の観察会、手づくり追い込み漁網体験・続いて追い込み漁体験、海辺のコンサート、総合的学習の舞台提供など、「参加型」・「顔の見える」自治会活動をテーマに組織の拡大・充実に成功している。

2 地域組織の統合と改変と横断型化－発想の掘り起こし、アイディアの集中と選択、そして実践へ－ 14:10～14:40

西田寛司（鳥取県三朝町）三朝町地域振興課 主幹

従来組織の機能重複と制度疲労に着目し、中山間地域活性化を目的とした住民自治組織の統合・改変に着手した。企画から実践までを分野横断的に構想し、住民のアイディアを掘り起こして、世代間交流機会の創造、小集落のサポート、遊休施設の有効活用、燻製産物の試作、米の販売など集落営農から地域営農への転換等選択的に実践に移している。

ティータイム

14:40～15:05

3 「子育てアップ」チャレンジプラン－学社連携による家庭の教育力向上のための実践事業－ 15:05～15:35

中野又善（福岡県春日市）春日市教育委員会社会教育課 課長補佐

学社の連携を鍵として学校教育課と社会教育課が実施事務局を共同設置し、生活習慣向上のための「基本メニュー」及び「チャレンジメニュー」を保護者に提示した。市内12の小学校とそのPTAの協力を得て、選択したメニューに添って、小学校3年生及びその保護者が生活習慣・学習習慣の向上を目指した実践に取り組んだ。保護者の評価を通して家庭における教育実践率は明らかに向上したことが判明している。

4 知的障がい者の挑戦と活動舞台の創造－年100回公演の瑞宝太鼓が引き出した可能性－ 15:40～16:10

高倉照一（長崎県雲仙市瑞穂町）瑞宝太鼓プレーヤー

岩本友広 同上 瑞宝太鼓プレーヤー・団長

2001年活動開始。知的障害を乗り越え、特技・特性を職業にまで高めるという意識で挑戦を開始し、年間100回の公演活動、20万人の聴衆を獲得するまでに成長した。太鼓を介して自分を打ち立て、職業を打ち立て全国展開を可能にした。希望し、努力し、感謝して生きる彼らには、無限の可能性が広がる。